

平成29年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第1回「フードロスと『もったいない』を考える」
(テーマ：食・ごみ)

□実施日時 平成29年7月25日(火) 10時00分～16時15分
□受講者数 19名(教員12名、研修・聴講者7名)
□実施場所 墨田区総合体育館(墨田区錦糸)
□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義

(ゲストティーチャー: NPO法人ハンガー・フリー・ワールド 儘田由香氏)

(1) 「もったいない鬼ごっこ」の体験

- ・自己紹介
- ・「もったいない鬼ごっこ」のルール説明
- ・生産、加工、流通、消費の各段階で起こりうるフードロスの状況等を考える。





(2) 振り返りワークショップ

・グループワーク ～フードロスが増え続けたら？ 私たちにできることは？～



【午後】

4. 環境学習プログラム「食べ物からエコを考えよう！」の紹介及び実習

(講師:NP0 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。しかし、現代の子供たちは、遊びや地域との関わりが希薄であり、様々なことを体験的に学ぶ機会が少なくなっている。このため、学校教育の場で体験に基づき子供の感性を伸ばすことが、昔と比べ非常に重要。
- ・環境学習もその一環であり、「自然は人間やすべての生き物のいのちの源である」ことを、実際の体験や気づきを通じて、子供の心の中に落とし込むことが大切。

(2) 「冷蔵庫すっきり大作戦！」プログラム紹介と体験

- ・冷蔵庫の食品を調査し、賞味期限／消費期限の状況や食べられなくなった原因等を考える。
- ・異なる種類の豆腐をラベル表示から比較し、どの豆腐を買うか考える。
- ・上記から、食べ物の無駄を少なくしたり、エネルギーを少なくなくしたりするための工夫を考える。



(3) 「食べ物からエコを考えよう！」プログラム紹介

- ・旬あてクイズ（都市環境問題や生きものとの関連を含む。）
- ・食育カルタ・絵手紙、エコ汁レシピ、里山の活用など

(4) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・自分たちで育てたトマトはよく食べる。体験が有効だと改めて感じた。
- ・アレルギーの問題が年々増えている。
- ・一番身近に取り組みやすいのは給食の残菜率を減らすことだが、子どもの栄養バランスとの兼ね合いも考える必要。
- ・学校だけでなく、家庭の協力が必要。家庭への発信も大切だが、各家庭の事情もあるので、発信には工夫が必要。
- ・「もったいない鬼ごっこ」では、誰にどういう風に食べてもらいたいかを想像して面白かった。食べられないときの残念な気持ちを感じることは大切と感じた。

5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散